

基小だより

明日咲くつぼみ



あま市立甚目寺小学校
平成 26 年度 第 5 号
平成 26 年 6 月 27 日

交通安全教室 (6 月 9 日)

津島警察署交通課、愛知県警察本部交通安全教育チーム「あゆみ」の方による交通安全教室を開催しました。本年度は、低学年では信号の意味と歩行者として気をつけること、高学年では自転車の乗り方や注意事項を中心に、交通安全への意識を高める機会としました。講話の一部を紹介します。

合言葉 1 「ヘルシートマト」(低学年向け)

(自転車に乗るときには) **ヘル**メットをかぶります。

(車に乗るときは) **シー**トベルトを締めます

(道路に) **と**び出しません

(交差点では) **ま**もりましょう 信号

(遊び場所) **ど**うろで遊びません

合言葉 2 「サイクリング」(自転車通行のルール)(高学年向け)

(自転車は車道の) **さ**そくたん(左側端)を通行。ただし 13 歳未満は歩道の通行が許されています。

(交差点では) **い**ちじていし(一時停止)。

(自転車は) **く**るま(車)の仲間。自転車は軽車両の一つです。

(自転車の) **リン**リンベルに注意。歩道は歩行者優先。鳴らす場合は自転車から降りて歩行者として鳴らします。

(夕方) **く**らく(暗く)になったら早めにライトを点灯。

自分の命は自分の力で守るようにしなければなりません。そして、「あなたの命はあなただけのものではない」ということをよく理解して生活してください。

知っていることばかりかもしれませんが、今一度確認したいことばかりでもあります。テストの 99 点は合格点かもしれませんが、交通安全は 1 点足りないために命を落とすこともあるのです。

ハッピートークトレーニング (6 月 13 日 5 年生)

言葉には人を(自分を)元気にしたり、悲しませたりといういろいろな「力」を持っています。そして、自分の表現力を磨くことは、自分の意思をきちんと伝えることにつながり、人間関係を円滑にしてくれます。このような目的から、毎年 5 年生を対象に「ハッピートークトレーニング」を行っています。

1 人が 1 日に話す言葉は、男で 15000~20000 語、女で 25000~30000 語(職業によって違う)だそうです。よく使う言葉は、自身の「言葉の引き出し」にたまっていき、その言葉のホルモンが出て、体の動きにつながっていくようです。例えば、「よくできた」という言葉は「がんばってよかったホルモン」を出して次への意欲につながり、「疲れた」という言葉は「疲れたホルモン」を出し、「疲れた表情」を作り出し、「疲れた人」を作ることになります。この日は、自分が聞いて元気になる言葉を挙げ、その言葉を数名でリレーして伝え合うゲームをしました。元気が出そうな言葉ばかりなので、何度も発声するうちにゲームをする一人ひとりの表情がどんどん明るくなっていくのがわかりました。



【「元気の出る言葉」を紹介し合う】

甚小まつり (6 月 20 日)

本年度の甚小まつりは「協力の絆を深めよう!! 最高の“お・も・て・な・し”で 笑顔あふれる甚小まつり」をテーマに開催されました。3 年生以上の各学級では、5 月後半より出店内容について話し合い、店作り等の準備を進めました。そして、店の準備と平行して PR 用のポスター作り、給食放送を

利用しての出店紹介などの活動にも取り組み、自分たちの手で創り上げる意識を高めました。当日は、多くの保護者や地域の皆様に参観いただくとともに、子どもたちの学年を超えた交流を深めることができました。また、アルミ缶や入場券代わりのペットボトルキャップも大変多く集まり、新たなキャップアート制作の第一歩を踏み出すことができました。

甚小まつりの声を拾ってみました。

「1年生を連れてあちこち移動するのは、大変だけど楽しかった」

「お店の中の配置やお客さんの歩くルートを考えるのがむずかしかった」

「呼び込みはちょっとはずかしいけど、みんな来てくれるとうれしい」

学級で考えた役割分担にしたがい、自分の言葉や行動で一生懸命「お客様」に伝えようとする姿を随所に見ることができました。この取り組みを通して、「してもらったこと」は心に残り、やがて「してあげる」ことにつながり、そこに望ましい関係ができあがっていくと確信しています。

多くの保護者・地域の方々のご来校に厚く御礼申し上げます。校内の案内等に至らない部分もありましたが、今後に生かして参りたいと思います。



【みなさん来てください】



【ご来店ありがとうございます】



【今年もたくさん集まりました】

熱中症予防

日ごとに暑さが増し、35℃を越える「猛暑日」になる日も予想されます。また、名古屋地方は、地形的な特色等から蒸し暑さが加わりやすく、「熱中症」が特に心配になる地域の一つであると言われています。「熱中症」とは、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節がうまくいかなくなり、具合が悪くなることです。症状として、「めまいやたちくらみ」「体がだるい」「体がふるえる」「足がつる」「吐き気がする」などが挙げられます。

◆熱中症の予防策

「熱中症」は気温がそれほど高くなくても湿度が高いと発症する可能性があります。予防として、次の3点が大切とされます。

- ① 規則正しい生活を送り体力を高めること。
- ② 体温を下げる体の仕組み「汗をかく」こと。汗をかくということは、体外に水分や塩分が出てしまいますので、補給することが必要になります。
- ③ 外出時には帽子をかぶるなど、体温を高めない工夫をすること。

◆7月1日～運動会終了までの期間限定措置として、以下のことも可能とします。

(1) スポーツドリンクを学校で摂取すること

学校で飲む飲料は原則お茶ですが、スポーツドリンクを持ってくる場合は水筒に入れて持って来てください。

- ・水分補給は、0.1～0.2%の食塩水またはナトリウム40～80mg/100mlのスポーツドリンクがよいそうです。
(出典 環境省23年版「熱中症環境保健マニュアル」)
- ・上記の基準は大人用ですので、子ども用はスポーツドリンクを2倍に薄めて補給することが望ましいそうです。

(2) 首を冷やすためのクールグッズの使用すること

- ・首は体内温度を下げる重要な部位です。



学校では、校舎外に出るときは、帽子（黄帽子・赤白帽子）をかぶって活動することを呼びかけ、保健室には、経口保水液を常備しています。

